



徳成寺

寺比わら版

第192号2022年12月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

2022年が終わろうとしています。年末と言えば大晦日に
初詣に出かけその足で、映画「男はつらいよ」を観たことが

ありました。映画館は満員御礼状態です。当時大学生だった私は、

何でフーテンの寅さんは、こうも多くの人々に愛されるのか不思議に思い

ました。寅さんのセリフの一つに「何というかな ああ生まれてきて良かった、

そう思うことが何べんかあるだろう。そのために生きてんじゃねえか。そのうち

お前にもそういう時が来るよ、な？ まあ、がんばれ。」と励ますシーンがあります。

人の持つ温もりと明るさを人々が確かめたくて「男はつらいよ」を観ていたような
気がします。決して二枚目ではないけど、優しくて温かく懐かしい寅さん。

令和の世には、寅さんみたいな人柄の方を見かけなくなりましたが、

温もりと明るさを忘れない良い年お迎えください。

-発行責任者-

住職

大山健児

坊主

大山ひとみ



大山超世の耳を澄ませば

お世話になっています、副住職です。報恩講ならびにお講勤めでお世話になった皆様、ありがとうございました。さて、下半期のお参りでは統一教会の事についての話題がよく上がりました。その中でも特に印象的だったのが、仕事や家庭がうまくいっていないのは先祖供養してないからであり、420代に遡って先祖を供養しなさいと寄付を求められ、言われるがまま献金したという話でした。私はこの話を聞いて、何よりも信じられているものはお金なんだな、と感じました。お金とはご存じの通り自身の努力に対する評価です。自分の力と言ってもいいでしょう。ただ、力を行使する事で、不安や悩みを払拭できると考えるのはウクライナ危機を引き起こしたロシアの姿と重なります。悪質な高額献金の被害者は救済されるべきであり、このような事を許してはならないと思います。それと同時に私達は加害性を孕んだ生き物であると見つめ直していくことが重要だと感じました。

